

## モラルハラスメント≡精神的 DV を知っていますか

「おかえりなさい」とにっこり微笑んで出迎えたのに、夫はムスツとしている。子どものことで相談をしようとすれば疲れてるんだから、今度にしてくれ。たまの休みにはゴロゴロ。妻が今日あったことを相談しよう、聴いてもらおうとしても「そんなくだらないこと」といった態度で無視をする。家のことは妻に任せっきり。ただそこにいるだけの夫に対して、この人にとって私は何だろう。家族って何？ 私は家政婦じゃない。妻は夫が想像もしていない疑問と不安を持ち始める。結婚って何だろう、こんな筈じゃなかったのに……案外そんな風に思っている人は多い。たいがいこうした夫は自分のことで精一杯の状態であって、一番間違っただけで妻に甘えているのですが、本人にはその自覚がない。

「俺が守ってやる」「俺についてこい」がプロポーズの言葉だった夫。給料を入れていることが守っているってこと？黙って、あなたの世話をすることがあなたについていくって事？両親に守られて「家」で育てられていた時と同じように、彼は妻に守られ生きることを実は求め続け、その結果、妻に三行半をつかれてはじめて、妻に対してしてきた行動が、妻への甘えであり、妻の気持ちを全く配慮していなかったと、気がつくことになるのです。

新婚当時は「おままごと」に毛が生えたような感覚で、夫がどんな態度をしてもうれしかった。夫の世話をすることに家政婦という感覚なんて全く持たなかった。しかし、子どもができ、いろいろな問題が積み上げられていく中、パートナーである夫とそれらを乗り越えたい。ともに協力し合い、支え合う、それが夫婦ってもの。あなたの世話をすることだけが私の役割ではない、と感じ始める。しかし、夫は、全く気づかずに、いつまでも「甘え」の中に暮らし続けるのです。男の人は、原家族（生まれ育った家族）の感覚を引きずったまま結婚生活を送ることが非常に多いです。母親が妻に変わっただけという言い過ぎでしょうか？家庭に安らぎだけを求め、守られることを求める夫。ともに安らげる空間を作っていきたいと望む妻。この感覚の差は、後々、大きな溝を二人の間に作っていくのです。こういう状態のご夫婦の場合、ちょっと苦労は要しますが、夫に自分の抱えている思いを伝え、自分を省みてもらう。コミュニケーション不全状態を改善させていくことで、立ち直っていく夫婦は非常に多いのです。

しかし、これから、少しの間連載でお話しさせて頂くことは、改善が難しく、逆に、夫に何か変化を促そうとモーションをかけた妻側が知らない間に心病んでいく、という関係。決してモーションをこれ以上起こそうとせず、距離を置いてくださいと言いたくなる関係。そういうパートナーが存在する、というお話です。

コミュニケーション不全が生み出した夫婦の問題とは全く異なり、片側のパートナーの自分しか愛せない、という変え難い人格が夫婦の関係に闇を落とす……。そういう人と関わってしまった妻は、心病んでいく……。という、特殊でいて、最近、なぜか非常に増えている、フランスの精神科医イルゴイエンヌが「モラルハラスメント」と命名した、精神的 DV 関係に陥っている夫婦のお話です。DV……自分には関係ない世界、とっていた人た

ちも、このモラルハラスメントという言葉の誕生によって、自分が攻撃を受けている、自分が精神的 DV の被害者であると自覚させることに大いなる貢献を果たしています。

次回は、早速、モラルハラスメント⇨精神的 DV についてお話ししていきましょう。